

## たんぽぽ

## ～熊本市の教育～

たんぽぽの花が綿毛のついた種子を風に乗せて遠くへ飛ばすように、熊本市の教育に関する情報を広めていきたいという思いを込めて「たんぽぽ」と名付けました。

熊本市の教育に関する今の話題や出来事を報告します

## 【清水中】乳幼児と清水中のふれあい交流会

7月4日(月)、8日(金)、14日(木)の3日間、清水中(北区)で、「乳幼児とのふれあい交流会」が開催された。これは、同中の3年生の家庭科の授業の一貫として、乳幼児への理解と関心を高め、小さな命に向き合うことを目的に、校区・民生児童委員協議会の協力を得て実現したものだ。

生徒たちは、人形を相手に赤ちゃんの抱っこの仕方やおむつの交換の仕方などの育児体験をしたり、ペットボトルで作った「がらがら」を使って実際に赤ちゃんに触れ合うなど、育児の喜びと苦勞を味わった。



活動に参加した生徒は、「小さな子どもが少し苦手だったが、地域の方々が丁寧に教えてくれたので緊張がほぐれた。赤ちゃんには、笑顔で優しく接するのが一番だと実感した」と感想を語った。

同校の多賀校長は、「将来、親として子どものお世話をすることの大切さを学ぶことができた。それ以上に反抗期の真ただ中にいる子どもたちが、自分も同じように育ててもらったということに気づき、親への感謝の言葉が聞かれたことは、大きな学びとなった」と話した。(8月4日 熊本日日新聞に関連記事掲載)



## 【必由館】第40回全国高校総合文化祭～郷土芸能部門で文化庁長官賞を受賞～

7月30日(土)～8月1日(月)に開催された第40回全国総合文化祭の郷土芸能部門で、必由館高校の和太鼓部が優秀賞及び文化庁長官賞を受賞した。4月に起きた熊本地震の影響も多く残る中、熊本は明るく元気に頑張っていることを伝えたいという思いで、力強い三宅太鼓や熊本の民謡「おもやん」、躍動感のある担ぎ太鼓で熊本の情景を表現したオリジナル曲『肥後の鼓舞』を披露した。

同校の3年生の部長は、「会場の多くの方々からの励ましの言葉を力にして、熊本の元気を一杯表現するために、今回の舞台に臨んだ。その結果、このような賞を受賞することができ、今までの練習の成果が出せてとても嬉しい。これまで私たちの活動へのご理解とご協力を頂いた全ての方々への感謝の気持ちで一杯です」と感想を語った。

また、8月27日(土)、28日(日)に行われた第27回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演では、熊本城の大太鼓が使われ、熊本復興の象徴としてさらに迫力ある演奏を行った。(8月6日 熊本日日新聞に関連記事掲載)



## 【西原中】吹奏楽部 九州吹奏楽コンクール2年連続金賞受賞

8月20日(土) 第61回九州吹奏楽コンクールが開催され、熊本地大会で中学校Aパート(大編成)66校中代表3校に入り九州大会へ駒を進めた西原中(東区)が、2年連続金賞を受賞した。

生徒たちは、震災で一ヶ月間練習が出来ない厳しい状況であったが、一生懸命に日々の練習を重ね、コンクール本番の演奏は、生徒たちの心が一つになり、ステージ上に音と気持ちが響き合い、指揮者と生徒の一体感が感じられた。

同中3年の梅野部長は、「1ヶ月間のブランクがあったが、その分、限られた時間を大切にして練習してきた。地震が起きて思い通りに練習が進まなかったこともあったが、今思えばこの結果につながるための試練だったと感じている。また、この素晴らしい賞をいただけたのも、多くの方の支えがあったからです」と感謝の気持ちを語った。

同中の増村校長は、「自由曲の『想ひ麗(うるわ)し浄瑠璃姫の雫』は、愛しい源義経を遠く津軽まで追いつけた浄瑠璃姫の深い愛と壮大な義経北行伝説を描いた作品で、とても惹きこまれるような素晴らしい曲だった」と話した。(8月21日 朝日新聞に関連記事掲載)



## 【城東小】1週間早い始業式

8月25日(木) 本市の小中学校で2学期の始業式を迎えた。熊本地震の影響で休校が続き、授業日数を補うため、通常より1週間早いスタートとなった。

城東小(中央区)では、熊本地震の影響で減った授業日数を確保するため、この日も、年度当初4時限の計画を5時限に増やした。

登校した児童は、まず職員室を訪れ、「おはようございます」と、元気な挨拶を響かせた。始業式では、校訓「まごころ5か条」を児童全員で唱和した後、代表児童3人が、2学期の目標を発表した。

同小の榎山校長は、「大きな花を咲かせるひまわりも、もとはほんの小さな種です。ほんの小さなひまわりの種でも、大きく育つ可能性をみんな持っています。みんな、それぞれに大きく育ち成長していく、いい2学期にしていきましょう」と話した。

(8月26日 朝日新聞に関連記事掲載)

